

研究業績書 (全 14 頁) 2017 (平成 29) 年 8 月時点

氏名 吉良 貴之

単著書	01 点 (準備中)				
共著書	17 点	国際会議発表	07 回	競争的資金	06 件
学術論文	06 点	国内学会発表	19 回	受賞	01 件
翻訳	06 点	研究会発表	21 回		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の区別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
単著書 (準備中) 1. 吉良貴之『世代間正義論』	単著	2017 年予定	勁草書房	将来世代配慮責務の規範的根拠についての法哲学的考察。環境問題や年金問題などの具体的問題への含意を意識する。 ※ 出版企画通過済、全 300 頁程度。
著書 17 点 1. 吉良貴之「憲法の時間性と無時間性」、仲正昌樹編『叢書アレティア 9 社会理論における「理論」と「現実」』、pp. 191-212	単著	2008 年 3 月	御茶の水書房	憲法の改正限界説と無限界説の対立を素材とし、両者を「時間性」の観点から考察することによって、そこに通底する正統性理解の相違を明らかにすることを試みた。
2. 吉良貴之「私の生の全体に満足するのは誰なのか——Whole Life Satisfaction 説の諸相」、仲正昌樹編『叢書アレティア 11 近代法とその限界』、pp. 123-142	単著	2010 年 3 月	御茶の水書房	「幸福」概念の倫理的・価値論的考察を行い、特に「生全体への満足」説を、英米分析形而上学における時間論の知見を援用して吟味し、一定の直観適合性と哲学的豊饒さがあることを確認した。
3. 吉良貴之「世代間正義と将来世代の権利論」、愛敬浩二編『講座・人権論の再定位 (二卷) 人権の主体』 pp. 53-72	単著	2010 年 11 月	法律文化社	「将来世代の権利」の憲法上の実現可能性について考察し、その規約的性格を明らかにするとともに、規範的基礎としての共同体論的想像力の重要性について確認した。

<p>4. 吉良貴之「マスキュリニティの死後の世界」、吉良・仲正監訳『イーストウッドの男たち』〔下記翻訳1〕pp. 339-351</p>	<p>単著</p>	<p>2011年3月</p>	<p>御茶の水書房</p>	<p>監訳を務めた、D・コーネル『イーストウッドの男たち』について、ジェンダー批評におけるマスキュリニティ（男性性）研究の動向を踏まえ解説し、その道徳哲学的な意義と限界を考察した。</p>
<p>5. JST-RISTEX「不確実な科学的状況での法的意思決定」編『法と科学のハンドブック』</p>	<p>共著</p>	<p>2012年8月</p>	<p>科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）研究プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」</p>	<p>最先端の科学技術が争点になる「科学裁判」において、法律家と科学者はいかにして協力できるか、それぞれの法律観・科学観を「不確実性」をキーワードにまとめながら考察した。科学者・法律家・法学者がそれぞれの観点から論述し、筆者（吉良）はそれを材料に全体の加筆、内容と文体の調整を行って一冊にまとめた（全107頁）。下記公式サイトにて全文公開。 http://www.law-science.org/top.html</p>
<p>6. KIRA Takayuki, "On Reasoning in Law and Science"</p> <p>※日本語版は2012年3月に公開：「法的思考と科学的思考——「科学裁判」の諸問題」</p>	<p>単著</p>	<p>2012年12月</p>	<p>陳起行・江玉林・今井弘道・鄭泰旭 主編『後継受時代的東亞法文化——第八屆東亞法哲學研討會論文集』元照出版公司：台北</p>	<p>国際学会での報告論文。最先端の科学技術問題が抱える「不確実性」の問題を、当事者対抗主義をとる現行の司法制度の枠組みにおいてどこまで扱うことができるかを論じた。日本語版は2012年度東アジア法哲学シンポジウム公式サイト掲載。 http://eacpl2012.nccu.edu.tw/</p>
<p>7. 吉良貴之「死者と将来世代の存在論——剥奪説をめぐって」、仲正昌樹編『「法」における「主体」の問題』、pp.295-317</p>	<p>単著</p>	<p>2013年7月</p>	<p>御茶の水書房</p>	<p>「死はなぜ悪いか」という「死の害」をめぐる分析形而上学の議論を検討。特に、死は生きていれば得られた機会を剥奪するがゆえに悪いとする「剥奪説」を取り上げ、一定の直観適合性と限界を確認した上で、それを最もよく説明する時間論上の立場として現在主義を擁護した。それによって死者・将来世代という、もはや／いまだ存在しない対象や主体の道徳的身分のあり方の考察へと接続した。</p>
<p>8. 吉良貴之「憲法の正統性の時間論的分節化」、憲法理論研究会編『憲法と時代』、pp. 183-196.</p>	<p>単著</p>	<p>2014年10月</p>	<p>敬文堂</p>	<p>憲法の受容根拠としての「正統性」概念について、分析形而上学における時間論である永久主義／現在主義的な世界観をもとにしながら、主要な論者の主張を整理した。その上で、時間にかかわる正統性問題がクリティカルになるものとして「世代間正義」「世代会計」について紹介した。</p>

9. 吉良貴之「世界認識の偶然と限界」、ドゥルシラ・コーネル『自由の道徳的イメージ』、pp. 271-279.	単著	2015年5月	御茶の水書房	監訳を務めた、D・コーネル『世界の道徳的イメージ』の解説論文。コーネルの思想を、認識の偶然と限界によってこそ可能になる自己再想像を強調するものとして捉え、本書が「イマジナリーな領域への権利」といった独特の概念の基礎固めを行っていることを確認した。
10. 渡辺千原・吉良貴之「法と科学」の相互構築性」、シーラ・ジャサノフ『法廷に立つ科学』、pp. 275-288.	共著	2015年7月	勁草書房	監訳を務めた、S・ジャサノフ『法廷に立つ科学』の解説論文。「法と科学」への社会構築主義的なアプローチによって、両者の知と権威が相互構築されていくあり方を描き出すことの意義を確認し、日米の法制度の違いやその後の科学技術社会論の発展を踏まえ、本書の射程を考察した。
11. 吉良貴之「時間——入れ違いの交換可能性のもとで」、瀧川裕英・大屋雄裕・谷口功一編『遅しきリベラリストとその批判者たち——井上達夫の法哲学』、pp. 209-221.	単著	2015年8月	ナカニシヤ出版	井上達夫の法哲学における「時間」的な要素のあり方について考察した。一見したところ反転可能性が成り立ちにくい世代間の問題について、先行者から非対称に扱われたくないという「入れ違いの交換可能性」が成立することを確認し、それによって井上の普遍主義を通時的に拡張する可能性について論じた。
12-13. 吉良貴之「思想信条の自由、信教の自由、学問の自由」、「司法権、違憲審査、裁判員制度」、神野潔編『教養としての憲法』	単著	2016年3月	弘文堂	主に理系学部生を対象とした、憲法学の概説書。吉良は①内心の自由、②司法権に関する章を分担執筆した。憲法学の基本的な論点を確認するほか、科学技術研究倫理と憲法の関わりなど、最近の議論を多く扱うことによって理系学部生の関心に応えるように試みた。
14. 吉良貴之「年金は世代間の助け合いであるべきか?」、瀧川裕英編『問いかける法哲学』、pp. 168-183	単著	2016年8月	法律文化社	年金制度を素材に、現時点に存在する世代間の正義 (intra-generational justice) について、人生全体の平等を考えた場合の規範的意義について考察した。
15. 吉良貴之「モダンガールの百貨店的主体性」、陶久利彦編『性風俗と法秩序』		2017年2月	尚学社	フェミニスト法哲学者ドゥルシラ・コーネルの主体性論をもとに、植民地資本主義における過渡的存在としての「モダンガール」を成り立たせる視線のダイナミズムについて論じた。
16. 吉良貴之「シルバー民主主義の憲法問題」、『別冊法学セミ	単著	2017年7月	日本評論社	「シルバー・デモクラシー」などと指摘される世代間不均衡下の民主主義において、

<p>ナー 憲法のこれから』</p> <p>17.稲正樹・寺田麻祐・吉良貴之・松田浩道『法学入門』</p>	<p>単著</p>	<p>2017年度内 (予定)</p>	<p>北樹社</p>	<p>将来世代まで含みこんだ「代表」のあり方の可能性などの憲法問題を論じた。</p> <p>実践的・具体的事例から出発して法的思考のあり方を考える法学入門書。国際基督教大学での「法学入門」での使用を念頭に置いて構成されている。約200頁のうち、吉良は3分の1程度を担当。具体的な担当トピックとしては「法と法学の発展」「法と科学技術」「市場秩序における法」「裁判員制度と刑事法」など。それぞれ1万5千字程度。</p>
<p>学術論文 6点</p> <p>1. 吉良貴之「世代間正義論——将来世代配慮責務の根拠と範囲」</p> <p>2. 吉良貴之「刑事裁判における「過去」と現在主義——映画「それでもボクはやってない」を素材に」</p> <p>3. 吉良貴之「法時間論——法による時間的秩序、法に内在する時間構造」</p> <p>4. <u>吉良貴之</u>、小林史明、川瀬貴之ほか（共著）「法的思考と社会構成主義——法哲学と科学技術社会論の協働に向けて」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p>	<p>2006年6月</p> <p>2008年9月</p> <p>2009年11月</p> <p>2012年3月</p>	<p>国家学会雑誌 119巻5-6号 pp.23-87</p> <p>査読なし、ただし東京大学大学院法学政治学研究科に優秀な学位論文を提出した者のみが掲載を許可される。</p> <p>創文 2008年9月号 pp. 23-26</p> <p>査読なし</p> <p>法哲学年報2008 pp.132-139</p> <p>査読あり</p> <p>常磐国際紀要 16号 pp. 63-89</p> <p>査読あり</p>	<p>環境問題などにおいて特に問題となる、将来世代への配慮責務の規範的根拠について分配の正義論の観点から考察した。従来の議論では将来世代の範囲の不確定性と存在の依存性が軽視されていることを問題にし、無条件の配慮責務を退け、規約的になされる範囲画定が論理的に先行すべきことを論じ、それによって現在世代の責任論へと接続する道を論じた。</p> <p>映画作品の分析を通じ、現実の裁判実践における「真理」概念の理解が英米分析形而上学の時間論における「現在主義」の立場から最もよく説明されうることを論じた。</p> <p>上記「現在主義」を法理論に全面的に応用するにあたっての総論的考察。特に答責的主体性と予見可能性の確保による時間的秩序構築を任とする近代法概念は、徹頭徹尾「現在」を中心として構成されることを論じた。</p> <p>吉良は第2章「仮定の思考としての「法と科学」「まとめ」ほか、全体の調整を担当した。(法)哲学的視点からの「科学論」における社会構成主義的思考の批判的検討を通じて、人間社会と科学の関わりを考える上での制度的思考の重要性を論じた。</p>

5. 吉良貴之「キャンパス・ハラスメントの捉え方——リストからプロセスへ」	単著	2013年10月	宇都宮共和大学 都市経済研究年報 pp. 179-197 査読なし	所属大学にて開催されたファカルティ・ディベロップメント研修において、いわゆる「キャンパス・ハラスメント」の予防策について講演したものの論文化。典型的なハラスメント行為を「リスト化」する従来型の対応では限界があり、むしろそれが起こるプロセスに着目することで対応する力を養っていくことの必要性を論じた。
6. 吉良貴之「リバタリアニズムにおける時間と人格」	単著	2014年10月	法哲学年報2013 査読あり	森村進『リバタリアンはこう考える——法哲学論集』（信山社、2013年）を素材に、リバタリアニズムにおける主体の時間的連続性の捉え方と自己所有権の関係にかかわるジレンマを指摘するもの。
7. 吉良貴之・定松淳・寺田麻佑・佐野亘・酒井泰斗「〈法と科学〉の日米比較行政法分析」	共著	2017年6月	科学・技術・社会 査読あり	吉良ほか翻訳した科学技術社会論の古典、シーラ・ジャサノフ『法廷に立つ科学』（勁草書房、2015年）につき、日米の社会科学史、行政法機構の比較を踏まえうえで現代的意義を探った。2015年度科学社会学会・書評セッションの論文化。
翻訳 6点				
1. ドゥルシラ・コーネル著、 吉良貴之・仲正昌樹 監訳 『イーストウッドの男たち——マスキュリティの表象分析』	監訳	2011年3月	御茶の水書房 全365頁	アメリカのフェミニスト法哲学者による、映画批評を通じたマスキュリティ（男性性）研究書の翻訳。マスキュリティの全能性を放棄し、「限界」を自覚することが豊かな自己再想像の道を開くことを論じる。 吉良は第一章「決戦を描くこと」および「序文」「結論」ほか訳、全体の用語・文体の調整・統一、解説論文（著書4）執筆。
2. 吉良貴之ほか訳 「法科学」「科学技術と法」 『科学・技術・倫理百科事典』	共訳	2012年1月	丸善出版	「法と科学」に関する辞典項目2点を訳出した。その他、10項目程度について訳文チェックを担当した。
3. ドゥルシラ・コーネル著、 吉良貴之・仲正昌樹 監訳 『自由の道徳的イメージ』	監訳	2015年5月	御茶の水書房 全300頁	ドイツ観念論、啓蒙思想、実存主義といった思想史の流れから、自由論の再構築を試みるもの。吉良は全体の用語・文体の調整、解説論文執筆（著書8）。
4. シーラ・ジャサノフ著、 渡辺千原・吉良貴之 監訳	監訳	2015年7月	勁草書房 全320頁	アメリカ法を中心に、最先端の科学技術問題を扱う「科学裁判」における当事者主義・

<p>『法廷に立つ科学』</p> <p>5. 吉良貴之 訳「検閲」 『スクリプナー思想史大辞典』</p> <p>6. エイドリアン・ヴァーミュール著、吉良貴之訳『リスクの憲法学』</p>	<p>単訳</p> <p>単訳</p>	<p>2015年12月</p> <p>2017年度内 (予定)</p>	<p>丸善出版</p> <p>勁草書房</p>	<p>対審構造の意義と限界について法社会学的・科学技術社会論的に考察したもの。 吉良は第十章「科学と法の柔軟な協働に向けて」ほか訳、全体の用語・文体の調整・統一、解説論文（著書10）執筆。</p> <p>思想史辞典項目のうちの1つ。「検閲」に関する思想史的考察。5頁。</p> <p>リスクに対応する法の各ブランチの制度能力を経験的に検証し、それに応じた権限配分のデザインとしての「最適化立憲主義」を構想するもの。解説論文執筆予定。</p>
<p>国際会議発表 7件</p> <p>1. 吉良貴之「法的思考と科学的思考——「科学裁判」の諸問題 ("On Reasoning in Law and Science")」</p> <p>2. KIRA Takayuki, "Concurrent Evidence and Polarization"</p> <p>3. 吉良貴之「「コンカレント・エヴィデンス」とその制度的含意」 ("On Concurrent Evidence and Its Institutional Implication")</p>	<p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p>	<p>2012年3月</p> <p>2012年8月</p> <p>2012年8月</p>	<p>東アジア法哲学シンポジウム 台北・政治大学</p> <p><i>International Symposium "How can ambiguity of "scientific evidences" treated in courts and policy contexts? : Focusing on coproduction processes of scientists and legal/policy experts,"</i> Tokyo Institute of Technology,</p> <p>国際シンポジウム「科学の不定性と社会 ～いま、法廷では…?」、東京・一橋講堂</p>	<p>論文5の発表。</p> <p>オーストラリアほかで実施されている「科学的証拠」の法廷での取り扱い方法である「コンカレント・エヴィデンス方式」について、いわゆる熟議民主主義論における「意見の分極化」論を参照し、科学的証拠の改善可能性とその限界を論じた。当該方式は証人尋問を一对一ではなく複数で議論する形をとるが、それによって専門的意見が収束する可能性も十分にある一方、価値対立が激しい問題についてはより対立が深まる可能性を指摘し、むしろそれによって「科学を超える」価値に関わる論点がどこにあるかを抽出することに意義があると指摘した。</p> <p>上記「「コンカレント・エヴィデンス方式」について制度趣旨を説明し、日本での導入可能性について考察を行った。</p>

4. KOBAYASHI Fumiaki and <u>KIRA Takayuki</u> , "Law and Science in Japan"	共同	2013年3月	Committee on Science, <i>Technology, and Law (CSTL)</i> <i>Meeting</i> , Washington DC, USA	震災以降の日本の「法と科学」の状況と可能性について、法哲学および科学技術社会論的観点から問題整理を行ったもの。
5. KIRA Takayuki "On Intergenerational Constitutional Legitimacy"	単独	2014年8月	The 2014 9th <i>East Asian Conference on Philosophy of Law</i> , Hankuk University, Seoul, Korea.	著書9の内容を中心に英語で発表。
6. KIRA Takayuki "On Intergenerational Reciprocity"	単独	2015年10月	<i>Asia-Pacific Science, Technology & Society Network: Biennial Conference 2015</i> , Kaohsiung, Taiwan.	著書9の内容を世代間の"reciprocity" (互敬性) 概念に着目しながら発展させ、東日本大震災以降のリスク管理意識の変化と関連させながら英語で発表。なおワークショップ <u>organized session "Intergenerational Democratic Deliberation for the Long-term Risk Management"</u> をオーガナイズした。
7. KIRA Takayuki "Population Ethics in Urban Aging Society"	単独	2016年10月	<i>International Conference on Applied Ethics</i> , Hokkaido University	都市化にともなう人口集中と、そこにおける世代間の意識ギャップを素材に「都市倫理」の問題を洗い出し、世代別代表制などを中心とする制度改革に向けた倫理的考察を行った。 なお、セッション <u>"Environmental Urban Ethics"</u> をオーガナイズした。
国内学会発表 18 件				
1. 吉良貴之「法時間論——法による時間的秩序、法に内在する時間構造」	単独	2008年11月	日本法哲学会 分科会 査読あり	論文3の発表。
2. 吉良貴之「法と映画、特にイメージとの関係」	単独	2010年11月	日本法哲学会 WS「法と文学の 展望」 査読あり	「法と映画」研究の紹介と、特にその法学教育における応用可能性について。

3. 吉良貴之「将来世代問題の規範理論的考察」	単独	2011年10月	内閣府「経済社会構造に関する有識者会議」「制度・規範ワーキンググループ」第2回会合	「世代会計」をめぐる規範的問題を、世代間正義論の法哲学的知見をもとに考察するもの。内閣府サイトに文字起こしが掲載されている。 http://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/k-s-kouzou/k-s-kouzou.html
4. 吉良貴之「法的思考と科学的思考の媒介としての科学技術社会論」	単独	2011年12月	科学技術社会論学会セッション「科学技術社会論への法的思考の導入可能性」 査読あり	論文4の担当部分について発表。
5. 吉良貴之「法実践の社会構成主義的把握の意義と限界」	単独	2012年4月	応用哲学会 査読あり	論文4および5の問題意識を発展させ、翻訳2で扱われている問題を紹介しながら考察。
6. 吉良貴之「法解釈の一般性と一回性——「法と文学」は「法と科学」の隙間を埋められるのか」	単独	2012年6月	明治大学「〈法と文学〉シンポジウム」	法実践における人文学的想像力の意味を問う「法と文学」研究について、法の形式性を重視する立場から批判的に考察した。企画委員も担当。
7. 吉良貴之「「法と科学」の法理論的含意」	単独	2012年11月	日本法哲学会 WS 査読あり	<u>ワークショップ「法と科学の不確実性——「科学裁判」から考える司法の正統性」</u> を開催責任者としてオーガナイズした。他の発表者として、法律実務家（弁護士）やヒトゲノム研究者などを招聘し、「科学と社会」の問題を多角的に考えるもの。筆者（吉良）はまとめとして、「法と科学」研究の法理論的含意の原理的考察を行った。
8. 吉良貴之「世代間正義と科学技術倫理」	単独	2012年11月	科学技術社会論学会 WS 査読あり	<u>ワークショップ「世代間倫理と共同体——環境と科学技術の倫理と法」</u> を開催責任者としてオーガナイズした。他の発表者として、環境倫理学や民事訴訟法専攻など。筆者（吉良）は全体の導入として、東日本大震災以降の世代間倫理の語り方の変容を論じた。
9. 小林史明・吉良貴之「法哲学カフェの実践と可能性」	共同	2012年11月	科学技術社会論学会 WS 査読あり	ワークショップ「日本のサイエンスカフェの変容」にて、発表者らが行ってきた「法哲学カフェ」の試みについて報告する。特に法哲学による原理的懐疑がもたらす「笑い」の効用や、講演者を複数立てることに

10. 吉良貴之「科学技術に関わる正義の時間的射程」	単独	2012年12月	日本現象学・社会科学会 ※ 招待	による脱権威化などを考察した。 シンポジウム「技術と社会」パネリストとして、東日本大震災以降の様々な言説を素材としつつ、分配と負担をめぐる正義の時間的射程の変容のあり方について原理的に考察した。
11. 吉良貴之「ジェンダーと法教育」	単独	2012年12月	ジェンダー法学会 ※ 招待	法教育におけるジェンダー／セクシュアリティ的なもののありかたについて、特に社会的に排除された人々の包摂のあり方を念頭に置きながら、法哲学的に考察した。
12. 吉良貴之「ゲノムデータベースとプライバシー」	単独	2013年11月	日本法哲学会・分科会	昨年度の法哲学会で主催したワークショップ「法と科学の不確実性」を具体的問題について補足し、発展させるもの。東北大学東北メディカルメガバンク機構の行っているゲノムデータベース構築事業（吉良はその倫理的問題の検討についてインフォーマルに関わっている）を素材とし、被災地におけるゲノムデータベースの構築がプライバシー概念を変容させうる可能性について論じた。
13. 吉良貴之「憲法と時間の秩序」	単独	2013年11月	憲法理論研究会	憲法 96 条改正論などが現実の政治課題として浮上する中、将来の価値への企投／コミットメントとしての憲法はその将来志向的性格においていかなる正統性を獲得しうるかを論じる。著書 1 の内容を、その後の研究成果を踏まえ発展させた。
14. 吉良貴之・工藤郁子「法の言葉、科学の言葉」	共同	2013年11月	科学技術社会論学会	ワークショップ「異分野交流、科学技術コミュニケーション実践時の言語・概念のズレ」にて発表。政策実現を求める声をインターネットを通じ広範囲に拾い上げ、一定の成果を上げている「キャンペーン」活動を取り上げ、その技術的進歩と法的コミュニケーションの変容の関係について論じた。
15. 小林史明・吉良貴之「「法と科学」の社会構成主義的把握の現代的含意」	共同	2013年11月	科学技術社会論学会	ワークショップ「シーラ・ジャサノフ『法廷に立つ科学』とその後の「法と科学」の導入として、翻訳刊行される同書の科学論上の位置付けを訳者とともに論じる。なお、

16. 吉良貴之「佐野・寺田コメントへのリプライ」	単独	2015年10月	科学社会学会	<p>当該ワークショップは吉良がオーガナイズし、行政法、情報法、ロボット法などの研究者および日米で科学鑑定に携わった経験のある弁護士の方をお呼びし、それぞれの観点から「法と科学」の諸問題についてお話しいただいた。</p> <p>シーラ・ジャサノフ『法廷に立つ科学』書評セッションで、政治学者・行政法学者からのコメントへの訳者リプライ。多元的社会において相対的に権威を高める法と科学の専門知のあり方を中心に論じた。</p>
17. 吉良貴之「WS 総括コメント」	単独	2015年11月	科学技術社会論学会	<p>セッション「〈法と科学〉の法理論」をオーガナイズし、法哲学者3名によるそれぞれの発表に対し総括的コメントを行った。</p>
18. 吉良貴之「世代を超える研究倫理——互恵性と互敬性」	単独	2015年11月	日本生命倫理学会	<p>セッション「大規模災害における研究倫理」に参加し、超世代的な影響のある科学技術研究のあり方について考察した。</p>
19. 吉良貴之「二つの世代間正義の可能性」	単独	2016年11月	日本法哲学会	<p>ワークショップ「高齢化社会と世代間正義」をオーガナイズし、憲法学からの発表、行政法学からの発表を踏まえ、著書14の内容を中心に発表した。</p>
競争的資金 6件				
1. 「世代間正義論、法時間論」	研究 代表者	2006-07年度	科学研究費補助金（特別研究員奨励費）	<p>将来世代問題を中心とする「世代間正義論」について法哲学的基盤構築を進めるとともに、そこから抽出された「時間」の問題の法哲学的重要性を見定める作業を行った。</p>
2. 「法時間論——法による時間的秩序、および法内在的時間構造に関して」	研究 代表者	2008-10年度	科学研究費補助金（特別研究員奨励費）	<p>上記研究を発展させ、英米分析形而上学における時間論の成果を法概念論に導入することにより、「法と時間」の関係を多面的に考察した。</p>
3. 「不確実な科学的状況での法的意思決定」（代表：中村多美子（弁護士））	メンバー	2010年9月～ 2013年3月	日本科学技術振興機構・社会技術研究開発センター委託研究	<p>「法と科学」に関わる学際的研究プロジェクト。吉良は専属の研究員としてプロジェクト全体のマネジメントを行ったほか、最終成果物である『法と科学のハンドブック』（著書5）の作成にあたって中心的な役割を果たした。なお、その活動と今後の研究</p>

4. 「高齢化社会における世代間正義の法的基盤構築」	研究 代表者	2014-16 年度	科学研究費補助 金（基盤 C）	計画が評価され、日本科学技術振興機構・ 柿内賢信記念賞を受賞した。 http://www.law-science.org/top.html
5. 「立法理学と世界正義論の統合によるグローバル立法理学の基盤構築」（代表：井上達夫（東京大学））	連携 研究者	2015-17 年度	科学研究費補助 金（基盤 B）	世代間の不均衡が顕著となっている日本社会において、これまでの「世代間正義論」の蓄積をもとに全世代的な協働可能性について研究する。比較行政法研究者との研究分担により、各国との比較を踏まえうえで具体的な制度低減を目指す。 http://jj57010.web.fc2.com/kaken/kaken2014.html
6. 「世代間不均衡下の都市倫理」	研究 代表者	2016 年度	第一生命財団 研究助成	世界正義（global justice）との関連における「立法」のあり方について、地球環境問題（特に世代間正義、気候の正義）からの考察を担当する。 (1) 人口の集中、(2) 人口の世代バランスの不均衡、という現代の都市の状況を前提に、いかなる「都市倫理」が可能を考察し、「世代別代表」のあり方など、議会改革を含む制度的提言を目指す。
受賞 1 件 1. 2012 年度科学技術社会論学会・柿内賢信記念賞（奨励賞）	単独	2012 年 11 月	科学技術社会論 学会	研究「「科学裁判」から考える法と科学技術の変容」に対して。
研究会発表や講演 ※ 一部 1. 吉良貴之・小林史明「法哲学若手漫談 Science at the Bar」 2. 吉良貴之「法と科学の哲学」	共同 単独	2011 年 11 月 2012 年 12 月	京都市・河原町 VOX ビル 3 階 山形県立米沢興 譲館高等学校	最先端の科学技術問題と法がどのように交差するかについての一般向け講演。複数で掛け合いながら展開することで視点の多様化を目指す。この他、同様の試みを各地で複数回行っており、その成果を国内学会 8 で発表した。 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）企画の一環として、高校生を対象に「法と科学」の問題について講演した。具体例を

			多くあげつつ、参加者のニーズに臨機応変に対応する対話を心がけた結果、生徒・教員からたいへんよい評価をいただいた。
--	--	--	--

※ その他一覧（上にあげたものは除く）

【公式研究会発表】

- 01：吉良貴之「世代間正義論」、2006年01月28日、東京法哲学研究会、明治大学
- 02：吉良貴之「法と時間の秩序」、2008年09月08日、東京法哲学研究会・法理学研究会合同合宿
- 03：吉良貴之「分析的形而上学としての時間論と法実証主義論争の接点」、2011年03月01日、北大法理論研究会、北海道大学
- 04：吉良貴之「〈法と映画〉運動の意義——D・コーネルのイーストウッド論を素材に」2011年07月17日、情報文化研究会（招待）、國學院大学
- 05：吉良貴之「死の害の存在論——剥奪説と自由の概念分析」、2012年03月24日、東京法哲学研究会
- 06：吉良貴之「私の幸福」は、いつ・誰のものなのか——「幸福論」からの法哲学入門」、2012年04月28日、TRE Forum（招待）、東京大学
- 07：吉良貴之「死者と将来世代の存在論——「死の害」の考察から」、2012年05月26日、法理学研究会、同志社大学
- 08：吉良貴之「科学と法的判断に関する導入的解説」、2012年08月27日、「法と科学」研究会兼GCOE研究会、東北大学
- 09：吉良貴之「科学技術倫理と法／正義」、2012年12月15日、関西工学倫理研究会、関西大学
- 10：吉良貴之「ゲノムデータベースとプライバシー」、2013年07月13日、明治大学大学院法学研究科院生研究会（招待）、明治大学
- 11：吉良貴之「科学の不確実性と法の正統性」、2013年08月01日、三菱総研・萌芽研究勉強会（招待）
- 12：吉良貴之（論題未定、森村進『リバタリアンはこう考える』（信山社、2013年）へのコメント）、2013年12月21日予定、東京法哲学研究会、法政大学
- 13：吉良貴之「科学技術倫理と将来世代」、2014年01月11日、現代規範理論研究会、専修大学
- 14：吉良貴之「不確実な科学的状況での法的意思決定」研究プロジェクト活動報告」、2014年03月03日、JST-RISTEX活動報告会、TKP市ヶ谷
- 15：吉良貴之「憲法に「最初の一撃」は必要か？——シモン・サルブラン氏へのコメント」、東京法哲学研究会・法理学研究会合同合宿、御殿場・時之栖、2014年09月05日
- 16：吉良貴之「二つの世代間正義論について」、Future Earth 研究会（招待）、国立環境研究所、2014年10月09日
- 17：吉良貴之「世代間民主主義の可能性」、倫理・法令・社会連続セミナー、東北大学・東北メディカルメガバンク機構、2015年01月26日（案内）
- 18：吉良貴之「小宮報告へのコメント」、科研「性風俗と法秩序」研究会（招待）、東北学院大学、2015年03月11日
- 19：吉良貴之「不確実性下の法解釈理論——A・ヴァーミュールの議論を素材に」、東京法哲学研究会、明治大学、2015年05月23日
- 20：吉良貴之「法と科学、不確実性下の立憲主義」、日本法社会学会関西支部研究会（招待）、大阪大学、2015年10月16日
- 21：吉良貴之「技術者のための法的思考」、関西工学倫理研究会（招待）、関西大学、2015年12月05日
- 23：吉良貴之「植村・八重樫論文構想へのコメント」、「尾高朝雄の現象学的法哲学」研究会、明治大学、2016年06月25日

- 24 : 吉良貴之「全体コメント」、IGS セミナー「訳者と語る『京城のモダンガール』」、お茶の水女子大学、2016年7月29日
- 25 : 吉良貴之「尾高朝雄の法哲学——現象学的アプローチから自由論・民主主義論へ」、日本近代法史研究会、慶応義塾大学、2016年7月30日
- 26 : 吉良貴之「戸田報告へのコメント」、東京法哲学研究会・法理学研究会合同合宿、御殿場・時之栖、2016年09月05日

【各種の文章】

- 01 : (コラム) 吉良貴之「世代間正義と公共性——なぜ将来世代を思い煩わなければならないのか」、井上達夫編『公共性の法哲学』ナカニシヤ出版、2006年
- 02 : (書評) 吉良貴之「紹介 ドゥルシラ・コーネル『イーストウッドの男たち——マスキュリニティの表象分析』」、*Women's Action Network*, 2011年5月
- 03 : (予稿) 吉良貴之「法的思考と科学的思考の媒介としての科学技術社会論」、2011年度科学技術社会論学会・学術大会予稿集、2011年12月
- 04 : (報告) 吉良貴之「〈法と映画〉運動の意義」、情報文化研究10号、2012年
- 05 : (報告) 吉良貴之・小林史明・立花浩司「法哲学若手漫談 Science at the Bar」レポート、JST-RISTEX「科学技術と人間」サイト、2012年01月
- 06 : (書評) 吉良貴之「学界展望 Janna Thompson, *Intergenerational Justice*, Routledge, 2009」、国家学会雑誌125巻9-10号、2012年9月
- 07 : (予稿) 小林史明・吉良貴之「法哲学カフェの実践と可能性」、2012年度科学技術社会論学会・学術大会予稿集、2012年11月
- 08 : (予稿) 吉良貴之「世代間倫理と共同体——環境と科学技術の倫理と法」、2012年度科学技術社会論学会・学術大会予稿集、2012年11月
- 09 : (報告) 本堂毅・吉良貴之・尾内隆之・吉澤剛「国際シンポジウム開催報告「科学の不定性と社会」」法律時報2013年1月号
- 10 : (報告) JST-RISTEX 研究プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」報告書 (JST-RISTEX サイト、H23年度および終了報告書を中村多美子ほかと共同執筆)、2013年3月
- 11 : (コラム) 吉良貴之・香川璃奈「科学と“法”の交差点——無関心に潜むリスク」、実験医学2013年8月号 (Vol.31 No.12)
- 12 : (報告) 吉良貴之・川瀬貴之「報告 ワークショップ「法と科学の不確実性——「科学裁判」から考える司法の正統性」」、『法哲学年報2012』、2013年11月予定。
- 13 : (報告) 吉良貴之「特集：とちぎ消費者カレッジ」、都市経済研究年報13号、2013年11月 (序文、補遺、全体の編集など担当)
- 14 : (小文) 吉良貴之「独学の限界について」、日本基督教団・池袋西教会『復活の朝』、2015年2月号
- 15 : (辞典) 吉良貴之「世代間正義 (intergenerational justice)」、『社会学理論応用辞典』丸善出版、2017年内予定
- 16 : (小文) 吉良貴之「法と科学とセクシュアリティ」、谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編『セクシュアリティと法』法律文化社、2017年内予定。

【社会活動、講演・ゲストセミナーなど】

- 01 : (研究会)「若手法哲学研究会」主宰、2007年4月より継続中。
<http://jj57010.web.fc2.com/wakateken.html>
- 02 : (ゲストセミナー) 吉良貴之「世代間正義と将来世代の権利論」、茨城大学大学院人文学研究科「憲法 (担当：齋藤笑美子)」、2011年06月28日
- 03 : (講演) 吉良貴之・小林史明・杉本雅明「第2回法哲学若手漫談 科学論の「第三の波」と法哲学」、東京都文京区・ラボカフェ、2012年03月30日

- 04 : (講演) 村上祐子・吉良貴之・小林史明「第 2 回法と科学の哲学カフェ 震災後の科学コミュニケーションにみる「事実」と「価値」、2012 年 04 月 22 日
- 05 : (講演) 平川秀幸・吉良貴之「おおいサイエンスカフェ 2012 科学が安全を保証するか・法は安全を保証するか」、2012 年 06 月 10 日
- 06 : (講演) 小林史明・川瀬貴之・吉良貴之「国際シンポジウム「科学の不定性と社会」アフターカフェ」、2012 年 08 月 26 日
- 07 : (講演) 村上祐子・久利美和・吉良貴之・小林史明「法と科学の哲学カフェ in 仙台「災害・プライバシー・法」、仙台市、2012 年 12 月 03 日
- 08 : (講演)「法と科学の哲学」、山形県立米沢興譲館高等学校、スーパーサイエンスハイスクール(SSH) 企画、2012 年 12 月 4 日)
- 09 : (ゲストセミナー)「法哲学から考える科学技術倫理」、国際基督教大学「行政法」(担当: 寺田麻佑)、2013 年 01 月 23 日
- 10 : (講演) 小宮友根・黒嶋智美・香川璃奈・吉良貴之・小林史明「法と医療の不確実性」、つくば市、2013 年 02 月 02 日
- 11 : (講演) 池田誠・吉良貴之・小林史明「正義、科学、そして幸福について」、札幌市、2013 年 02 月 16 日
- 12 : (講演) 蓮井誠一郎・吉良貴之「サイエンスカフェ水戸 震災後のあれこれ、科学や法でどうにかできる?」、水戸市、2013 年 03 月 02 日
- 13 : (講演) 吉良貴之「キャンパス・ハラスメントの捉え方——リストからプロセスへ」、宇都宮共和大学、2013 年 06 月 17 日
- 14 : (講演) 吉良貴之「家族法のこれまでとこれから——ハグ条約問題などを素材に」、栃木県連合戸籍住民基本台帳事務協議会総会 (宇都宮市役所)、2013 年 07 月 04 日
- 15 : (講演) 吉良貴之「若者と消費者問題——ネットトラブルから考える法学入門」、とちぎ消費者カレッジ、2013 年 07 月 09 日
- 16 : (講演) 吉良貴之「賢い消費者になって社会に出よう——カフェで語るネットトラブル対処法」、とちぎ消費者カレッジ、2013 年 07 月 20 日
- 17 : (講演) 吉良貴之「民法 900 条 4 号ただし書の違憲決定から考える相続と平等」、国際基督教大学公開講演会 (「日本国憲法」、担当: 中村安菜)、2013 年 09 月 30 日
- 18 : (取材協力) BS フジ『ガリレオ X』「静粛に! 法廷でぶつかる科学と法律」、2013 年 11 月 24 日放送 (テレビ番組)
- 19 : (講演) 吉良貴之「アイドルとインターネットで法律入門」、宇都宮短期大学附属高校・高大連携講座、2014 年 06 月 07 日
- 20 : (講演) 吉良貴之「最近の最高裁判決から考える家族法」、栃木県連合戸籍住民基本台帳事務協議会、2014 年 09 月 30 日
- 21 : (講演) 吉良貴之「科学技術倫理と法」、帯広畜産大学 (「市民生活と法」、担当: 岡崎まゆみ)、2014 年 11 月 21 日
- 21 : (講演) 吉良貴之「1950~60 年代ハリウッド映画から考える法律と道徳」、帯広市公開講座、2014 年 11 月 21 日
- 22 : (講演) 吉良貴之「キリスト教と法律学」、池袋西教会、2015 年 06 月 07 日
- 23 : (講演)「科学技術倫理と法」、崇城大学 (「日本国憲法」ほか、担当: 清水潤)、2016 年 01 月 09 日